



2012年(平成24年) 11月11日 日曜日

天気	6	9	12	15	18	21(時)
東京	☁	☁	☁	☁	☁	80
横浜	☁	☁	☁	☁	☁	80
千葉	☁	☁	☁	☁	☁	80
さいたま	☁	☁	☁	☁	☁	80
札幌	☁	☁	☁	☁	☁	10
仙台	☁	☁	☁	☁	☁	70
名古屋	☁	☁	☁	☁	☁	90
大阪	☁	☁	☁	☁	☁	90
福岡	☁	☁	☁	☁	☁	60

朝日新聞東京本社

本日の編集長=平山長雄

〒104-8011東京都中央区築地5-3-2 電話03-3545-0131 www.asahi.com

**11月11日は電池の日**  
 一般電池工業会  
 社団法人 BATTERY ASSOCIATION OF JAPAN  
<http://www.baj.or.jp/>

オピニオン・社説・声

11面

- 社説 大飯原発と規制委/いじめ自殺調査
- ザ・コラム 年内解散の風が吹く

経済 起業 お金の新しい集め方

起業に使うお金の新しい集め方が、米国で注目されている。事業に共感した人たちからインターネット上でお金を集める手法で、クラウドファンディングと呼ばれる。ベンチャー企業が増えるきっかけになると期待されている。6面

国際 党大会に合わせ、民主化要求

ノーベル平和賞候補にもなった中国の人権活動家、胡佳氏が、開会中の第18回共産党大会に合わせ、18項目の要求を明らかにした。党大会の公開や普通選挙の実施、政治犯の釈放、言論

# 救命センター、搬送の高齢者に 延命治療せず 6割経験

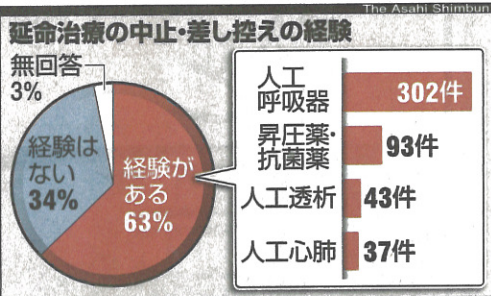
全国の救命救急センターの6割以上が、過去1年間に高齢者に対して人工呼吸器や人工心肺などの装着を中止したり、差し控えたりした経験のあることが、朝日新聞社の調査でわかった。救命医療で「最後の砦」とされる救命センターでも、回復が見込めない患者に対し、家族や本人の希望があれば、延命治療を控える動きが広がっていた。▼3面||家族と医師の苦悩

## 本社調査

### 「本人・家族が希望」7割

全国254の救命救急センターに10月、高齢者への終末期医療の実態を聞いた。57%の145施設から回答があった。この1年に

救急搬送された65歳以上の高齢者に、人工呼吸器や人工心肺、人工透析などの積極的な治療を中止したり差し控えたりした経験の有無と件数を尋ねた。この結果、63%にあたる91施設が「ある」と回答した。呼吸器の中止・差し控えは計302件あり、このうち、患者の年齢や病名など具体的なデータを挙げた中止例は14件あった。人工心肺の差し控え・中止は37件あった。



### 「過剰な医療不要」 医師にも広がる

日本救急医学会代表理事の有賀徹昭と大学病院長の話。かつては医師も家族も、人工呼吸器などは着けて当たり前だと思っていた。だが最近、医師も家族も「自分がして欲しくないことはしない」「過剰な医療は不要」といった考えが広まった。高齢社会で死が身近になったこともあり、変化が起きているようだ。実際に中止などを行った件数が増えただけでなく、その事実を正直に公表できるようになったことも大きな変化だ。

中止や差し控えの理由を複数回答で聞くと、「家族から本人の希望を伝えられた」が7割で最も多かった。中には「家族の付度も含まれている」とみられる。「数日以内に死亡が予測されると医学的に判断した」は5割、苦痛を長引かせ、本人の益にならないとチームが判断した「が3割と続いた。呼吸器を中止すると、早ければ数分で亡くなる。初めから装着しない差し控えは、患者の死期を早めるという点では同じだが、中止に比べ、家族にも医師にも心理的な負担が少ない。

一方、21%の31施設では、延命治療の中止や差し控えを検討したもの、実際はしなかった経験があった。理由は「家族の意見がまとまらない」が最多で、「医療チームと家族の意見が不一致」「法的に問題がある」と考えた」と続いた。終末期医療を巡っては2

004、06年に北海道や富山で医師が人工呼吸器を外し、患者が死亡したことが明らかになり、外した医師が書類送検され、いずれも不起訴となった。日本救急医学会は07年、条件付きで延命治療の中止を認める指針をまとめた。本人の意思が書面などで明らかで家族も同意したり、本人や家族の意思が不明でも医療チームが末期と判断したりすれば、人工呼吸器などを中止できると定めた。(辻外記子、月籠彰子)

### 維新の地 協定3席

日本維新の会(代表・橋下徹大阪市長)が全国で進める地方拠点づくりが難航し、9月末の結党以降、党